

平成17年度研修見学会レポート

平成17年7月29日

株式会社 コスモス
斉藤憲昭・磯貝純美

成田市リサイクルプラザへ見学に行きました。

～現在問題になっているゴミ問題について～

平成13年度の廃棄物処理事業経費は、2兆9,464円の出費となり、4人家族の場合は年間で約82,000円もゴミ処分の費用として税金から支払っていることとなります。

ゴミの焼却場の設置場所がないのも深刻な問題の一つです。

焼却場が少ない原因としては、

1. ゴミを収集することによる悪臭、人体に影響のある物質の発生
 2. ゴミを燃やすことによるダイオキシン類などの人体に影響のある物質の発生
 3. ゴミを燃やすことによる人体に悪影響のある煙の発生
- などの周辺住民への影響が考えられています。

成田リサイクルプラザについて…

現在の保有のゴミ収集車は126台になります。

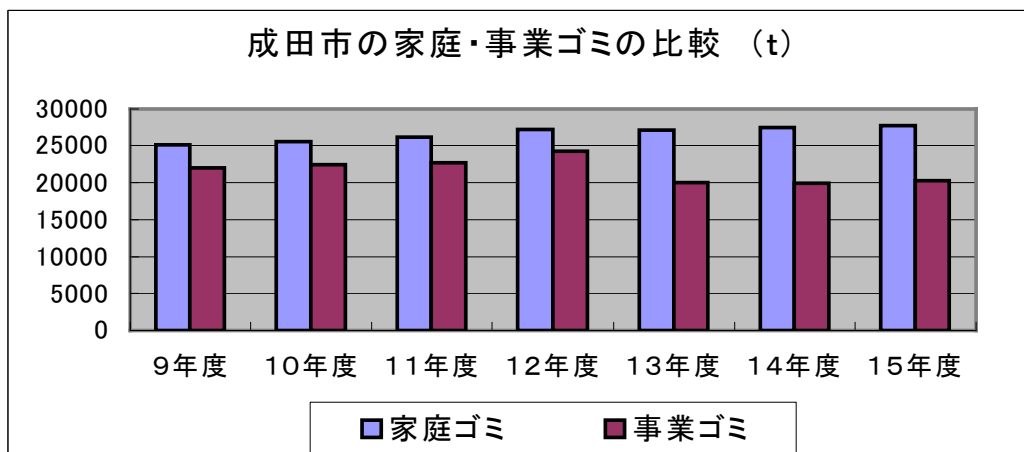
一日に稼働する車の台数は70～75台で大体3往復します。

一日に搬入されるゴミの量は、約230tになります。

一年に搬入されるゴミの量は、約43500tになります。

下記のグラフは、成田リサイクルプラザにて収集してきた家庭と事業のゴミの比較です。

グラフを見ると、事業ゴミの数が年々減少はしているのが目立ちますが、まだ一般の家庭ゴミが増加傾向に見られます。成田市では年々人口は増加しているもののひとりひとりがリサイクルを心がけてゴミの分別や、生ゴミの再生などを簡単どころから始めれば減少につながると思いました。



メインとなる施設が3つあり、それぞれ分担をして効率的なリサイクル事業に取り組んでいます。

1. 要品再生施設棟

ゴミとして出されたものを再生修理する再生室をはじめ、再製品を展示するホール、学習研修室、情報コーナーなどが設けられています。



2. 粗大ゴミ処理施設棟

不燃性のさまざまなゴミを受け入れて、資源として取り出す最新鋭の施設です。ここでは、2つのゴミ処理の工程が行われています。下記図参照。



- 缶やビンをリサイクルすることで、資源とエネルギーの節約を図ります。この写真では、スチール・アルミ缶ビンなどの分別をしています。



- 粗大ゴミを分別処理する技術で、資源を効率的に回収します。

3. 貯留棟

鉄・アルミの圧縮物などの資源物や有害物を一時保管する他、リサイクル資源として再利用できるプラスチック製品のうち、専用の再処理工場へ搬出します。ペットボトルを「ペットボトル減容機」で圧縮し一時保管した後、専用の再処理工場へ搬出します。



今回の研修に参加して・・・

今回、研修に参加させていただきました【成田市リサイクルプラザ】は、成田市を中心とした近郊の町村を含めたゴミ処理場ですが、1市町村だけでもこれほどのゴミが回収され処理に追い付かない状況の中、今現在の日本人口が増え続けている中、私達への以下のような仮題があげられます。

1. リサイクルを心掛けるのではなく実施する
2. 無駄なゴミを作らない・増やさない
3. 各自の環境意識レベルを高める
4. 物はゴミではなく資源であることへの再認識
5. リサイクル品への抵抗感をなくす
6. "思う"のではなく"やる"への行動力

一般の家庭ゴミでもまだまだリサイクルができるものがあります。

リサイクル品は世の中に沢山ありますが、みなさんはリサイクル品がどのような形に生まれ変わるかご存知でしょうか…。

今後は、今現在よりもゴミ問題は大きな課題になります。

ひとりひとりが、ゴミ問題を理解し分別や再利用などを心がけ、環境に配慮し10年・20年後先もより良い自然環境になり続けるように頑張りたいです。